

木菴といふ鳥がはいつて来た、誕生が同一の日で鳥がはいつて来たのも同じ事柄でふしぎな縁故があるといふところから、其の鳥の名を互に取替へて名を命けたやうの仕末であります。それで、仁徳天皇は之を大鶴鶴尊といふ名を申上げるやうになりましたし、武内宿禰の子は木菴宿禰と申し即ち葛城家の先祖になつた人です。それから御承知の通り聖徳太子の御名は厩戸皇子と申しあげます、これは母后が宮中の厩の前で御産氣づきになつたといふことに因んだ名である。かゝる種類るいの例は随分澤山あることです。(つづく)

現今の幼稚園保育法につきて(承前)

東 基 吉

幼稚園の唱歌につきても亦吾人の意を得ざるも

の多し凡そ幼稚園に於て唱歌の材料を擇まんとする根本原則は、彼等幼兒を以て尙未だ發達せざる未開人種と見ること之なり。従つて吾人の見えて、優美高尚雅致に富める歌曲を以て直に移して、彼等に用ゐんと欲す、誤れるの甚しきものなり。或は曰く、幼兒に適せしめんとする歌曲の簡單明瞭なるを擇むべきは何人か知らざらんたい現今に於て此の如き適當の唱歌なきを如何、則現在あるものに付きて之を取る亦已むを得ざるなりと。まことに已むを得ずと云はんと欲すれども、これ抑々自家の幼稚園に對する不忠を表白せるものにあらずして何ぞや適當なる者なしといつて、局外より適當なるもの、與へらるゝを待つ、はた何の日を以て適當のものを得んとするか。

抑々幼兒に與ふべき唱歌の數は取て多きを要せ

ず、彼等は小學の兒童と其傾向自ら異なり。新しき唱歌を多く覺えんと刺戟よりは、寧反つて既に知れる面白き唱歌を幾回にても歌ふことを喜ぶ者なり、此傾向を察知せず、即矢鱈に多くの新しき唱歌を提出して彼等に教へ込まんとす。こゝを以て勢不適當極まるものをも擇んで之を用ゐるに至るものなり、若し夫れ或宗教的幼稚園に於て採用せる如き、直接に神を讚美し神の榮光を知らしめんが爲に唱はしめつゝある唱歌の如きは、教育上寸毫の價値なきものといつて可なり。

談話は通例庶物の話、即通常の自然物加工品等に付きて日常兒童に親近なる者に付きての話と、修身の話、則有益にして興味ある事實及寓言に付きての話とに分かたれたり。抑々幼兒が話を好むことは、本來の性質にして最早くより顯はるゝ所

の本能なり。則巧に之を利用せんか、彼等は之によりて人生百況の關係を理解すべく、徳性の涵養、觀察注意の發達、發音言語の練習は、最も自然的に最も容易なる形式によりて得らるゝなり。従つて、若し其方法を誤らんか、之等の効果を收むること能はざるは勿論、反て夙くより不注意の習慣を養成し、物事の觀察に緻密を缺く性質を有せしむるに至るは明なり、是に於て談話の材料の選擇と其方法とは最も注意すべき要件となる、吾人は或外國人の幼稚園に於て、聖書中に記されたる基督が當時の猶太人を誡めたる話を教授せるを見た、基督の説教固より巧妙を極むといへども、これ抑々當時博學の猶太人に向つてなせる者、併も直に移して之を理性の甚だ發達せざる幼兒に向ひ、尙且最も拙なる談話の方法を以て傳へんとせるを

見て、吾人は寧其大膽なるに一驚を喫したりき。

外國人の幼稚園に於ては、時々此の如きものあり、我邦人の幼稚園に於ても、其材料の撰擇甚た當を失せるものありてこゝ七八年前の小學校修身書にありける修身談を其儘持ち來りて談話の材料とせるもの少からず。

吾人は幼稚園の談話の材料としては、専ら寓言章話によらんと欲す。時に神話、英雄談を交へ用ゐるべしと雖、其最も彼等の趣味に適し、嗜好に投ずるは寓言童話に如くはなし。これ此二者に於ては人世百況の關係が、極めて幼稚なる形式によりて顯はれ居るを以てなり。尤も此二者の中に於ても、撰擇の標準は自ら存するありて、寓言童話ならば悉く採用すべしといふにはわらざるなり

(第二卷第七號家庭欄參照)

而して所謂庶物話の如きは極めて普通の自然物人工品に對して、幼兒と保姆とが隨意の談話によりて授くべきものなるに、往々にして小學校の理科教授的の形式に流るゝあるは深く注意せざるべからず。吾人の見る所を以てせば、所謂修身話、庶物話等と區別することなく、寓言童話の中に於て一切を包括せんと欲するなり。

幼稚園に於ける唱歌を教授せんとするは、圖書を最必要とするが如く、談話に於ては、圖書の殊に必要なることは、改めて言ふを要せず。

手技に於ては、言ふべき專更に多けれども、餘りに長文に亘るを以て、簡單に數言を以て結ばんと欲す。手技即幼稚園恩物を弄ばしむることに付きて、幼兒の力相當なることを課し、殆半以上保姆の手傳を以て成さしむるが如き弊は現今尙多

の幼稚園に見る所にしてどの方面より考へても、無益有害なるは最も明なり。幼児の獨立心を害して依頼心を増長せしむる事之より大なるはなし。此の如き方法の、現今無識なる保姆によりて到る所に行はるゝは慨嘆の至といふべし、稍進みたる弄ばせ方を取れる幼稚園に於ても、尙且つ古來傳襲の順序に束縛せられて、其範圍を越ゆる能はず、究屈極まる法則に司配せられて、幼児をして自由の活動を試みしむる能はざるもの比々殆ど然り。抑々恩物の順序の如き、既に其の根本原理にして、破壊せらるゝ以上は、必然に自ら解躰せらるべきものに屬す。彼の原理にして幼児保育上に應用せらるゝ事の不可能なること既に明にして併も尙屹々として此順序を墨守することは、これ實に不合理の甚しきものなり、たゞし、彼の順序に従

ふことが、最も便利なるが故なりといはゞ、吾復た何をか云はんや。

以上の四課目は即幼稚園保育課目の總べてにして、一日五時間内に於て、交互に幼児に課するものなり。此の如く區別せらるゝといへども、由來幼稚園は遊戯を利用して教育する場所なるを以て之等のものは悉く遊戯的性質を帯びざるべからず、換言すれば幼児に過重にして苦痛の感を與ふべからざること之なり、即ち常に嬉々として快活の情に充ちて従事せざるべからず。尤も、幼児の心情は常に變轉極まりなく、一寸した事によりても泣いて見たり、スネて見たりする事あるは免れざれども、苟も幼児の活動を抑制して、人爲的不自然的なる一定の規律の下に強いて服従せしめんとするが如きは極めて不可能なり。

之を要するに、凡そ一施設の價値は、其存する所、物にわらずして實に之を運轉する人にあり。

尋常科准教員の資格より有せざる者に向つて、保育法の改良を叫び幼稚園の効果を望む。不當之より甚しきはなし。吾人は現今我國に於て幼稚園を以て、純然たる教育系統の中に加へながら、何故に之を改良發達せしむる方法を講ぜざるか、何故に之を運轉する保育者養成の法を奨勵せざるかを怪しむものなり。(六元)



寄書

題賞文掲載のため、他の玉稿は總べて次號に譲り候。

懸賞文の集まりたる數比較的に少かりしは遺憾に候。萩子君のは選を望まずとの事故、等外と致し候。

幼時の家庭 (等外)

東京 萩子

わ、幼時の家庭、此五文字はいかにたのしき記憶を私の心から呼び起しましたでせうか。いかにかなしき記憶がうかび出たでありませうか。其當時小さい胸にさざまれたさまの印象、今は心

